

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3225200号
(U3225200)

(45) 発行日 令和2年2月20日 (2020.2.20)

(24) 登録日 令和2年1月29日 (2020.1.29)

(51) Int.Cl.

A 6 1 H 7/00 (2006.01)

F I

A 6 1 H 7/00 3 2 3 U

評価書の請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 15 頁)

(21) 出願番号 実願2019-4603 (U2019-4603)
 (22) 出願日 令和1年12月4日 (2019.12.4)
 (31) 優先権主張番号 201822178198.9
 (32) 優先日 平成30年12月24日 (2018.12.24)
 (33) 優先権主張国・地域又は機関
 中国 (CN)

(73) 実用新案権者 515156094
 喬山健康科技股▲ふん▼有限公司
 台湾台中市大雅区東大路二段999号
 (74) 代理人 110001139
 S K 特許業務法人
 (74) 代理人 100130328
 弁理士 奥野 彰彦
 (74) 代理人 100130672
 弁理士 伊藤 寛之
 (72) 考案者 郭海鵬
 中国上海市嘉定区新和路1355号

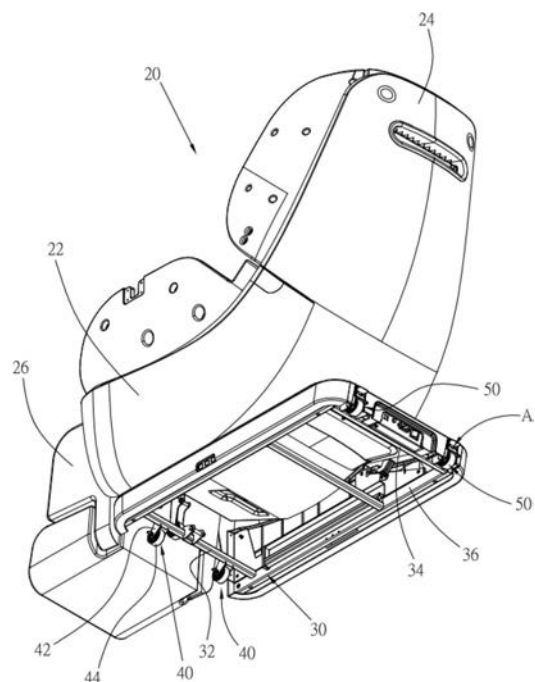
(54) 【考案の名称】 マッサージチェア

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 移動モードまたは安定モードに切り替えることで、移動及び位置決めを容易にするマッサージチェアを提供する。

【解決手段】 マッサージチェア20は床面から支持されたベース部30と、ベース部の上方にある座部22と、座部の後ろにある背もたれ部24と、を含み、ベース部の前端には少なくとも1個の前脚キャスター40が設けられ、ベース部の後端には左右2個の後脚キャスター50が設けられる。マッサージチェアは、ユーザの操作を通じて、移動モード或いは安定モードに切り替えができ、移動モードでは、少なくとも前脚キャスター及び後脚キャスターは、同時に回転可能な状態で床面に支持され、安定モードでは、前脚キャスター又は後脚キャスターは、ロック機構により回転がロックされる。

【選択図】 図2



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

床面から支持されたベース部と、前記ベース部の上方にある座部と、座部の後ろにある背もたれ部と、を含み、前記ベース部の前端には少なくとも 1 個の前脚キャスターが設けられ、前記ベース部の後端に左右 2 個の後脚キャスターが設けられるマッサージチェアであって、

前記マッサージチェアは、ユーザの操作を通じて、移動モード或いは安定モードに切り替えされることができ；前記移動モードにある間、前記少なくとも 1 個の前脚キャスター及び前記 2 個の後脚キャスターは、同時に回転可能な状態で床面に支持され；前記安定モードにある間、前記少なくとも 1 個の前脚キャスター及び前記 2 個の後脚キャスターは、回転可能な状態で同時に床面に支持されない、マッサージチェア。

10

【請求項 2】

前記マッサージチェアに設けられ、ロック状態と解放状態との間で動作可能な少なくとも 1 つのロック機構をさらに備え、前記マッサージチェアは、前記ロック機構を操作することにより移動モードまたは安定モードに切り替えられる、請求項 1 に記載のマッサージチェア。

【請求項 3】

前記前脚キャスター及び前記後脚キャスターは、床面に支持されるままで；前記少なくとも 1 つのロック機構は、踏み込み操作を介してユーザによって前記ロック状態および前記解放状態に切り替えられることができ、前記ロック機構が前記ロック状態にある時、少なくとも 1 個の前記前脚キャスターまたは前記後脚キャスターが回転できず；前記ロック機構が前記解放状態にある時、前記前脚キャスター及び前記後脚キャスターがいずれも回転できる、請求項 2 に記載のマッサージチェア。

20

【請求項 4】

前記座部の前方にある脚保持部をさらに備え；各前記後脚キャスターの回転軸線が前記マッサージチェアの両側の方向にあり；前記マッサージチェアは、各々前記 2 個の後脚キャスターに設けられた 2 つのロック機構を備え、各前記ロック機構のユーザに踏み込まれる部位が前記ベース部の後端に露出される、請求項 3 に記載のマッサージチェア。

【請求項 5】

各前記後脚キャスターは、キャスター座と、車輪と、を含み、前記車輪が前記キャスター座内に枢動可能に設けられて、回転でき；

30

前記少なくとも 1 つのロック機構は、少なくとも 1 個の後脚キャスターに取り付けられ、各前記ロック機構がアンロックペダルと、ロックペダルと、ブレーキパッドと、を備え；前記アンロックペダルは、ペダル部と、第 1 連動部と、を備え；前記アンロックペダルは、前記キャスター座に枢動可能に設けられ、解放位置とロック位置との間に角度変位でき、前記ロック機構を前記ロック状態及び前記解放状態に位置させ；

前記ロックペダルの一端は、ペダル部であり、他端が第 2 連動部であり；枢設部は、前記ロックペダルに設けられ；前記ロックペダルは、前記アンロックペダルの下方に位置し；前記第 2 連動部は、前記アンロックペダルの第 1 連動部に枢着され；

前記ブレーキパッドは、可撓性シートであり、その一端が前記キャスター座内に固定され、他端が接触端であり；枢着部は、前記ブレーキパッドに設けられ；前記ロックペダルの枢設部は、前記ブレーキパッドの枢着部と互いに枢着し、前記ロックペダルが前記枢設部を中心としてロック位置と解放位置との間に角度変位でき；前記ブレーキパッドの前記接触端は、可とうで、前記車輪と前記ロックペダルとの間に位置し；

40

前記ロックペダルが前記ロック位置にある時、前記アンロックペダルをそのロック位置に移動させ、並びに前記ブレーキパッドの前記接触端を前記車輪に接触させ；前記アンロックペダルが前記解放位置にある時、前記ロックペダルをその解放位置に移動させ、前記ロックペダルは前記車輪から離れた方向に移動し、かつ前記ブレーキパッドの接触端も前記車輪から離れる、請求項 4 に記載のマッサージチェア。

【請求項 6】

50

前記ブレーキパッドは、弾性を持ち；少なくとも１つの舌部は、前記ブレーキパッドに設けられると共に前記キャスター座の内部に押し当てる、請求項５に記載のマッサージチェア。

【請求項７】

調整ねじは、前記キャスター座に螺設され、その一端が前記キャスター座内に挿入し；前記少なくとも１つの舌部は、前記調整ねじに当接する、請求項６に記載のマッサージチェア。

【請求項８】

前記マッサージチェアに設けられ、ロック状態と解放状態との間で動作可能な少なくとも１つのロック機構をさらに備え、各前記ロック機構はゴム足を備え；前記マッサージチェアは、前記ロック機構を操作することにより移動モードまたは安定モードに切り替えられ；前記移動モードにある間、前記少なくとも１個の前脚キャスター及び前記２個の後脚キャスターは、同時に床面に支持され；前記安定モードにある間、前記少なくとも１個の前脚キャスター及び前記２個の後脚キャスターは、同時に床面に支持されず、かつ各前記ロック機構の前記ゴム足が床面に支持される、請求項１に記載のマッサージチェア。

10

【請求項９】

前記少なくとも１つのロック機構は、踏み込み操作を介してユーザによって前記ロック状態および前記解放状態に切り替えられる、請求項８に記載のマッサージチェア。

【請求項１０】

前記少なくとも１つのロック機構は、ユーザの手操作でロック状態及び解放状態に切り替えられる、請求項８に記載のマッサージチェア。

20

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、マッサージ機に関し、特に、移動しやすいマッサージチェアに関する。

【背景技術】

【０００２】

マッサージチェアは、全身をマッサージして筋肉の疲れをとり、筋肉のこりをほぐすことができ、且つマッサージチェアの開発されたマッサージ機能及び効果がますます洗練され、マッサージチェアが現代人及び一般の家庭において幅広く使用される家電製品になり、特に高齢者は、マッサージチェアによってもたらされるマッサージ効果を楽しんでいる。

30

【０００３】

しかしながら、マッサージチェアはかなりの体積を有し、人体の重量に耐える特定の構造強度を有することに加えて、マッサージチェアの金属フレーム内には、揉み、つかみ揉み、もみたたき、たたきなどのマッサージ機能を働かせるため、複雑な機械的機構も取り付けられている。これにより、マッサージチェアはかなりの重量があり、自由に動かせることができない。

【０００４】

図１を参照すると、ユーザがマッサージチェアを動かすことができるようにするため、従来技術は、マッサージチェア１０の底部の裏側に２つのキャスター１２を設けるように設計され、マッサージチェア１０を動かす時、図に示すように、前記２つのキャスター１２を床面に触れて動くように、マッサージチェアを傾ける必要がある。

40

【０００５】

従来技術は、マッサージチェアを動かす目的を達成することができるが、マッサージチェア１０を持ち上げ、傾けるのは一定の力が必要で、持ち上げられてから動かす間、マッサージチェアのバランスをとらなければならない。この方法は女性ユーザにとっては明らかに大変で、高齢者にとってもより難しく、少しの不注意で怪我をするリスクもある。したがって、かなり重量のあるマッサージチェアを動かしやすいか、本考案が解決しようとする課題である。

50

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

本考案は、上記欠点を解決するため、容易に移動及び位置決めすることができるマッサージチェアを提供することを主な目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本考案により提供されるマッサージチェアは、床面から支持されたベース部と、前記ベース部の上方にある座部と、座部の後ろにある背もたれ部と、を含み、前記ベース部の前

10

端には少なくとも1個の前脚キャスターが設けられ、前記ベース部の後端には左右2個の

後脚キャスターが設けられ；

前記マッサージチェアは、ユーザに操作を通じて、移動モード或いは安定モードに切り替えされることができ；前記移動モードでは、前記少なくとも1個の前脚キャスター及び前記2個の後脚キャスターは、同時に回転可能な状態で床面に支持され；前記安定モードでは、前記少なくとも1個の前脚キャスター及び前記2個の後脚キャスターは、回転可能な状態で同時に床面に支持されない。

【0008】

上記の技術的特徴により、前記マッサージチェアは、マッサージチェアを持ち上げたり傾けたりすることなく、押すことで移動でき、マッサージチェアの移動及び位置決めを容易にし、危険も回避できる。

20

【0009】

好ましくは、前記マッサージチェアは、ロック状態と解放状態との間で動作可能な少なくとも1つのロック機構をさらに備え、マッサージチェアは、前記ロック機構を操作することにより移動モードまたは安定モードに切り替えられ；前記移動モードにある間、前記少なくとも1個の前脚キャスター及び2個の後脚キャスターが同時に回転可能な状態で床面に支持され；前記安定モードにある間、前記少なくとも1個の前脚キャスター及び2個の後脚キャスターが同時に回転可能な状態で床面に支持されない。

【0010】

好ましくは、少なくとも1つのロック機構は、踏み込み操作を介してユーザによって前記ロック状態および前記解放状態に切り替えられることができる。それにより、前記ロック機構を使用し、単に踏むだけで、前記マッサージチェアを移動モードまたは安定モードに切り替えることができる。

30

【0011】

好ましくは、少なくとも1つのロック機構は、ユーザの手操作でロック状態及び解放状態に切り替えられることができる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図1】従来のマッサージチェアを移動する様子を示す図である。

【図2】本考案の好ましい実施例に係るマッサージチェアの底面図である。

【図3】本考案の好ましい実施例に係るマッサージチェアの下部フレーム及び2個の後脚キャスターの立体図である。

40

【図4】本考案の好ましい実施例に係る後脚キャスターの底面図である。

【図5】本考案の好ましい実施例に係る後脚キャスターの分解立体図である。

【図6】図3の6-6線断面図（後脚キャスターがロック解放状態にあることを示している）である。

【図7】本考案の後脚キャスターがロック状態にあることを示す図である。

【図8】図7の8-8線断面図である。

【図9】本考案の好ましい実施例に係るマッサージチェアの側面図（その移動状態を示している）である。

【図10】本考案の第2の好ましい実施例に係るマッサージチェアの部分立体図（下部フ

50

レームの後クロスビーム、後脚キャスター及びロック機構のみを示し、前記ロック機構が解放状態にある)である。

【図 1 1】図 1 0 の側面から見た図である。

【図 1 2】図 1 1 と概ね同じで、ロック機構がロック状態にあることを示す図。

【図 1 3】本考案の第 3 の好ましい実施例の部分立体図 (下部フレームの後クロスビーム、後脚キャスター及びロック機構のみを示している) である。

【考案を実施するための形態】

【0013】

本考案の目的、特徴および達成する効果は、下記の好ましい実施例の説明および図面によって理解することができる。

【実施例 1】

【0014】

図 2、図 3 を参照すると、本考案の第 1 の好ましい実施例によって提供される便利に移動及び位置決めするマッサージチェア 20 であり、床面でマッサージチェアを支持するためのベース部 30 と、前記ベース部 30 の上に設けられるチェア本体と、を備え、前記チェア本体が座部 22 と、前記座部 22 の上方にある背もたれ部 24 と、前記座部 22 の前方にある脚保持部 26 と、を含む。前記チェア本体の内部には、マッサージ機構 (図示せず) が取り付けられ、前記マッサージ機構が電力で駆動し、マッサージチェアに設計されたマッサージ機能を働かせる。前記チェア本体及びマッサージ機構は、本考案の主な創作主題でないため、ここでその説明を省略する。

【0015】

前記ベース部 30 は、矩形を呈するフレームであり、その前端、後端に各々前クロスビーム 32 および後クロスビーム 34 を有し、前記 2 本のクロスビーム 32、34 の両端が各々前記ベース部の両側のサイドビーム 36 に固着されている。

【0016】

本考案のマッサージチェア 20 は、2 個の前脚キャスター 40 と、2 個の後脚キャスター 50 と、をさらに含み、前記 2 個の前脚キャスター 40 がベース部 30 の前端の前記前クロスビーム 32 に取り付けられ、各々ベース部 30 の両側に位置し; 前記 2 個の後脚キャスター 50 は、前記ベース部 30 の後端の前記後クロスビーム 34 に取り付けられ、各々ベース部 30 の両側に位置する。

【0017】

各前記前脚キャスター 40 は、キャスター座 42 と、前記キャスター座に枢設された車輪 44 と、を備え、前記キャスター座 42 が前脚キャスター 40 を一定の方向に保持させ、回転できないように、前クロスビーム 32 に固定できる。或いは、前記キャスター座 42 の頂端は、前脚キャスター 40 が任意の方向に 360 度回転できるように、前記前クロスビーム 32 に枢動可能に取り付けられている。

【0018】

図 4 及び図 5 を参照すると、各前記後脚キャスター 50 は、キャスター座 52 と、車輪 58 と、を含み、前記キャスター座 52 は断面が「冂」形を呈する中空枠であり、両側壁 54 と、前記両側壁の間に形成される収容空間 56 と、を備え; 前記車輪 58 は、輪軸 59 によって前記収容空間 56 内に枢動可能に設けられ、自由に回転可能であり、輪軸 59 が前記両側壁 54 を貫設する。前記後脚キャスター 50 は、前記キャスター座 52 を通じて前記後クロスビーム 34 に取り付けられ、本実施例では前記キャスター座 52 が後クロスビーム 34 に固着されることで、前記後脚キャスター 50 を一定の方向に維持させ、回転できなくなる。ただし、前記後脚キャスターの取り付け方法は、これに限定されず、後脚キャスター 50 を任意の方向に 360 度回転させることができるように、前記キャスター座 52 の頂端を前記後クロスビーム 34 に枢動可能に設けられることができる。これら前脚キャスター 40 及び後脚キャスター 50 は、マッサージチェア 20 を支持するため床面に接触する。

【0019】

10

20

30

40

50

本実施例は、各々前記２個の後脚キャスター５０に取り付けられた２つのロック機構Ａをさらに有する。図６を参照すると、各ロック機構Ａは、アンロックペダル６０と、ロックペダル７０と、ブレーキパッド８０と、を備える。

【００２０】

前記アンロックペダル６０は、ペダル部６２と、第１連動部６４と、を備え；ピボットピン６６は、前記ペダル６０に穿設されたピボット穴６１を挿通し、前記ペダル６０を後脚キャスターのキャスター座５２内に枢動可能に設けられることで、前記ペダル６０が前記ピボットピン６６を回転中心として回転し、解放位置とロック位置との間で角度変位でき、前記ペダル部がペダリングのためにキャスター座５２に露出する。

【００２１】

10

前記ロックペダル７０の一端は、ペダル部７２を形成し、他端が第２連動部７４である。枢設部７５は、ピボット穴であり、図６に示すように、前記ペダル７０の本体に設けられ、前記ペダル部７２と前記第２連動部７４との間に位置する。

【００２２】

20

図５、図６を参照すると、前記ロックペダル７０は、前記アンロックペダル６０の下方に位置し；枢着軸７８は、前記ロックペダル７０の第２連動部７４及び前記アンロックペダル６０の第１連動部６４に枢着されることで、前記２つのペダル６０、７０に連動関係を生じさせ、ロックペダルのペダル部７２がキャスター座に露出している。本実施例では、前記アンロックペダル６０の第１連動部６４は、突起の形態であるため、第１突起と呼ばれ；前記ロックペダル７０の第２連動部７４は、突起の形態或いは２個の突起７４１の形態であり得る。本実施例の第２連動部７４では２個の突起７４１の形態であり、第２突起と呼ばれ、その間に凹み部７４２が形成される。前記２つの連動部６４、７４が枢着されると、前記第１連動部６４の前記第１突起が前記２個の第２突起７４１の間の凹み部７４２に挿入することで、第１突起及び第２突起が並置されるように形成し；前記枢着軸７８は、これら並置された突起を貫設する。第１連動部と第２連動部の構造形態は、互換でき、すなわち、第１連動部が２個の突起の形態で形成でき、第２連動部も１個の突起の形態で形成できることが形式できることが理解されたい；或いは前記２つの連動部は１個の突起の形態であってもよい。

【００２３】

30

前記ブレーキパッド８０は、金属製の弾性片などの可撓性シートであり、弾性を持っている。前記ブレーキパッド８０の一端は、支点端８２であり、他端が接触端８４であり、凹凸面またはざらざら面に形成されている。枢着部８６は、本実施例では２つの突起片によって形成され、前記ブレーキパッド８０の本体に設けられ、前記支点端８２と前記接触端８４との間に位置する。ピン８３は、前記支点端８２で形成される貫通孔８２１を挿通し、前記支点端は、ブレーキパッド８０の接触端８４が前記支点端８２を支点として可とう或いは弾性的に揺動されるように、前記キャスター座５２内に配置され；ピボットピン７５１は、前記ロックペダル７０の枢設部７５及び前記ブレーキパッド８０の枢着部８６に枢着される。

【００２４】

40

各ロック機構Ａの前記アンロックペダル６０、ロックペダル７０及び前記ブレーキパッド８０は、上記の接続及び枢着関係を通じて、前記アンロックペダル６０が前記ピボット穴６１を回転中心として回転されると共にロック位置と解放位置との間の角度変位も可能であり；前記ロックペダル７０は、前記枢設部７５の回りで回転可能であり、またロック位置と解放位置との間の角度変位も可能である。

【００２５】

前記ブレーキパッド８０の接触端８４は、前記ロックペダル７０と後脚キャスターの車輪５８との間に位置し、好ましくは、ブレーキパッドが外力の作用を受けていない時、前記接触端８４は前記車輪５８から離れる復元力を持っている。２つの舌片８２１、８２２は、前記ブレーキパッド８０上に形成され、後脚キャスター５０のキャスター座５２内部の適切な位置に押し当て、例えば前記キャスター座５２に螺着される調整ねじ５７に押し

50

当て、前記調整ねじ５７が前記キャスター座５２に挿入する深さを制御することによって、前記ブレーキパッド８０の復元力を調整できる。

【００２６】

図３、図４及び図６を参照すると、本実施例のロック機構Ａは、解放状態にあることを示し、前記ロックペダル６０及び前記アンロックペダル７０がいずれも解放位置にあり；前記ブレーキパッド８０の接触端８４が後脚キャスター５０の車輪５８から離れて触れられず、この時、後脚キャスター５０がロックされず、その車輪５８が自由に回転できる。したがって、床面に接触している前脚キャスター４０及び後脚キャスター５０の両方を回転させることができ、前記マッサージチェア２０は移動モードにあり、容易に移動させることができる。

10

【００２７】

前記ロック機構Ａで後脚キャスター５０の回転を制限させようとする場合、前記ロックペダル７０を踏むだけでロック機構Ａをロック状態に切り替えることができる。図７、図８を参照すると、ユーザは、前記ロックペダル７０のペダル部７２を下に向けて踏んで、前記ロックペダル７０を回転させ、図７、図８に示されるロック位置に角度変位させ、同時に、前記２つの連動部６４、７４の連動関係では、前記アンロックペダル６０はロックペダル７０によって連動され、逆回転（ロックペダルの回転方向とは反対）し、そのロック位置に角度変位する。ロック位置の時、前記ロックペダル７０は、前記ブレーキパッド８０の接触端８４を押動して後脚キャスターの車輪５８へ偏向させ、前記接触端が前記車輪５８の周面に接触し、車輪５８が回転しにくくなり、ブレーキ効果が生じ、したがって、前記マッサージチェア２０は安定モードに切り替えられ、容易に移動することができない。前記２つのペダル６０、７０がロック位置にある時、第１連動部６４の周壁に設けられた位置決め面６５は、前記第２連動部７４の周壁（前記凹み部の周面）に設けられた当接面７６に密着され、前記２つのペダル６０、７０を互いに当接固定させ、外力の作用を受けてない場合において、前記ロック位置に位置決めされたままである。実施のとき、前記位置決め面６５及び前記当接面７６は、交換可能に配置されているので、前記２つの連動部が同様に前記位置決め面及び前記当接面を通じて互いに当接固定することもできる。

20

【００２８】

後脚キャスター５０のロック状態を解除しようとする時、単に前記アンロックペダル６０を踏むだけでよく、ロック機構Ａがロック状態から解放状態に切り替えられる。図７、図８から分かるように、後脚キャスター５０がロック状態にある時、前記アンロックペダル６０のペダル部６２は比較的高い位置まで上げられ、これはユーザが踏みやすくなる。前記アンロックペダル６０が踏み込まれた後、図４、図６に示す解放位置に角度変位され、同時に、前記２つの連動部６４、７４の連動作用を通じて、前記ロックペダル７０がアンロックペダル６０によって駆動してその解放位置に角度変位する。解放位置にある時、前記ロックペダル７０は、前記車輪５８から離れる方向へ移動し、前記ブレーキパッド８０の接触端８４に加圧せず、ブレーキパッド８０の接触端８４が車輪５８から離れる方向に偏向され、車輪５８はもはや触れられず、後脚キャスター５０が自由に回転可能な状態（ロック解除状態）に戻り、前記マッサージチェア２０が移動モードに戻る。

30

【００２９】

前記２つのペダルが解放位置にある時、図４、図６に示すように、前記ロックペダル７０のペダル部７２は、ユーザが前記ロックペダルをロック位置に踏み込むのを容易にするために、比較的高い位置まで上げられ；前記アンロックペダル６０のペダル部６２は、比較的低い位置まで下げられ、ロックペダル７０のペダル部７２を邪魔しない。後脚キャスター５０を再びロックする場合、前記図７、図８の動作を繰り返し、ロックペダルが踏み込まれてロック機構Ａがロック状態に切り替えられることができる。

40

【００３０】

図９を参照すると、本考案の技術的手段により、ユーザがマッサージチェア２０を動かしたい場合、マッサージチェアを動かすため、前記２つのロック機構Ａを図３、図４及び図６の解放状態にさせ、前記２個の後脚キャスター５０をロックせず、前記マッサージ

50

ェア 20 を移動モードにさせる。マッサージチェアを適切な位置に移動させた後、さらにロックペダル 60 を踏んで、前記 2 つのロック機構 A で前記 2 個の後脚キャスター 50 をロックさせると、マッサージチェアを安定モードに戻してマッサージチェアを位置決めさせることができる。

【0031】

本実施例の効果は、後脚キャスターのロックペダルを踏むか、ペダルを放すことにより、簡単に後脚キャスターをロックまたはロック状態を解除でき、ユーザがマッサージチェアを直接押してマッサージチェアを所望の位置に移動してから後脚キャスターをロックすることである。マッサージチェアを動かしようとした時は、マッサージチェアを平らに押すだけでよく、マッサージチェアを持ち上げたり傾けたりする必要はなく、移動中のマッ

10

【0032】

さらに、本実施例は、後脚キャスター 50 を後クロスビーム 34 に固定し、一定の方向に向け、後脚キャスターの輪軸 59 の軸方向 C (図 3) はベース部 30 の両側の方向に位置するため、後脚キャスター 50 の回転軸線 (すなわち、前記軸方向 C) がマッサージチェアの両側の方向にある。各ロック機構 A の前記 2 つのペダル 60、70 は、ベース部 30 の後端、すなわちマッサージチェアの背面に露出し、ユーザがマッサージチェア 20 の背面からマッサージチェアを押すと、前記 2 つのペダルを踏むことができる。

【0033】

20

本実施例の前記 2 つのロック機構 A は、各々前記 2 個の前脚キャスター 40 に取り付け可能であることが理解でき、この時、前記 2 個の前脚キャスター 40 をベース部 30 に固定させ、回転できない (一定の方向に向く) ようにし、前記 2 つのロック機構 A のペダル 60、70 をベース部の左右両側、すなわちマッサージチェアの両側に露出させる。これにより、ユーザは、マッサージチェアの前方または後方からマッサージチェアを押し、脚保持部 26 によって妨げられているかどうかに関係なく、マッサージチェアの側面から前記 2 つのペダル 60、70 を便利に踏むことができる。

【実施例 2】

【0034】

図 10 を参照すると、本考案のマッサージチェアの第 2 の好ましい実施例であり、本実施例はマッサージチェアの部分構造、すなわちベース部 30 の後クロスビーム 34、後脚キャスター 50 及びロック機構 A' のみを示す (注: マッサージチェアには左右対称の左右後脚キャスター 50 及び左右 2 つのロック機構 A' が装備され、後脚キャスター 50 の 1 つ及びロック機構 A' の 1 つのみが図に示されている)。その他の構成要素は前記の好ましい実施例と同じであり、詳細には触れない。前記後脚キャスター 50 のキャスター座 52 は、前記後クロスビーム 34 に取り付けられ、キャスター座 52 が後脚キャスター 50 が回転できないように、後クロスビーム 34 に固定することができ; 或いは、前記キャスター座 52 は、後脚キャスターを任意の方向に 360 度回転させることができるように、後クロスビームに枢動可能に設けられる。したがって、本実施例では、マッサージチェアの前脚キャスター及び後脚キャスターを一定の方向に向けて配置したり、任意の方向に 360 度回転させたりすることができる。

30

【0035】

前記ロック機構 A' は、ロックペダル 92 と、ゴム足 94 と、アンロックペダル 96 と、第 1 回転軸 98 と、第 2 回転軸 99 と、を含み、前記 2 本の回転軸 98、99 が前記後クロスビーム 34 に回転可能に取り付けられ、2 つの歯車 102、104 の噛み合いを通じて連動され、逆回転できる。前記ロックペダル 92 の一端及び前記ゴム足 94 の一端は、第 1 回転軸 98 に固設され、且つロックペダル 92 が前記ゴム足 94 よりも高く、前記ゴム足 94 の他端 (自由端) にゴム足本体 95 を有する。前記アンロックペダル 96 の一端は、前記第 2 回転軸 99 に固着される。本実施例では、前記 2 つのペダル 92、96 は、ベース部 30 の後端、すなわちマッサージチェアの後側に露出しているので、踏むのが

40

50

便利である。

【0036】

図11を参照すると、前記ロック機構A'が解放状態にあることが示され、この時、前記2つのペダル92、96及び前記ゴム足94がいずれも解放位置にあり、前記ゴム足94のゴム足本体95が床面よりも高く、床面に支持されておらず、好ましくは、ロックペダル92位置の高さが前記アンロックペダル96よりも高い。この時、前記マッサージチェアは、前脚キャスター（図示せず）及び2個の後脚キャスター50によって床面に支持されており、移動可能状態にあり、ユーザがマッサージチェアを押して移動させることができる。

【0037】

マッサージチェアを位置決めさせようとした時、図12に示すように、前記ロック機構A'をロック状態に操作し、ゴム足94が床面に支持させる。詳しく言えば、ユーザは、足で前記ロックペダル92を図12のロック位置まで踏み込み、図12の方向に準じ、前記第1回転軸98がロックペダル92によって駆動されて時計回り方向に回転し、前記ゴム足94が前記ゴム足本体95で床面に支持させるように下向き角度変位し；前記第2回転軸99は、第1回転軸98に連動されて反時計回り方向に逆回転し、アンロックペダル96をロックペダル92より高い位置に上げさせる。

【0038】

前記ゴム足94が床面に支持されている時、前記ベース部の後端はわずかに持ち上げられ、後脚キャスター50の車輪58が床面から離れており、床面に触れない。この時、マッサージチェアは、前脚キャスター及びゴム足94で床面に支えられ、すなわちマッサージチェアの前脚キャスター及び前記2個の後脚キャスターが同時に回転可能な状態で床面に支持されない（後脚キャスターの車輪が回転できるが、床面に触れていない）ため、マッサージチェアが安定モードにあり、動かせることができない。

【0039】

マッサージチェアを動かす時、図11を参照すると、ユーザは前記アンロックペダル96を下に踏むと、この時、図11の方向に準じ、前記第2回転軸99は時計回り方向に回転し、前記第1回転軸98を反時計回り方向に逆回転させると、前記ロックペダル92及び前記ゴム足94が上方に角度変位し、前記ゴム足94が床面から離れ、代わりに前記後脚キャスター50の車輪58が床面に接触し、すなわち前記マッサージチェアの前脚キャスター及び後脚キャスターは、同時に回転可能な状態で床面に支持され、マッサージチェアが移動モードにあり、動かせることができる。

【0040】

本実施例のロック機構A'は、ベース部30のサイドビーム36（例えば第1の好ましい実施例に示すように）に設けられることができ、便利に踏むため、前記2つのペダル92、96をベース部の側辺に露出させることが理解されたい。

【実施例3】

【0041】

図13を参照すると、本考案のマッサージチェアの第3の好ましい実施例であり、本実施例もマッサージチェアの部分構造、すなわちベース部30の後クロスビーム34、後脚キャスター50及びロック機構A'のみを示す（注：マッサージチェアには左右対称の左右後脚キャスター50及び左右2つのロック機構A'が装備され、後脚キャスター50の1つ及びロック機構A'の1つのみが図に示されている）。その他の構成要素は第1の好ましい実施例と同じであり、詳細には触れない。本実施例のマッサージチェアの前脚キャスター及び後脚キャスターは、一定の方向に向かって設けてもよいし、任意の方向に360度回転させてもよい。

【0042】

前記ロック機構A''は、ベース部30のサイドビームまたは後クロスビームに設けることができ、図はゴム足110と、アジャスタ115と、を備えた後クロスビーム34に設けることを例とする。前記アジャスタ115は、ネジ116と、ノブ118とを含み、前

10

20

30

40

50

記ネジ 1 1 6 がベース部 3 0 の後クロスビーム 3 4 に直立して螺着され；前記ゴム足 1 1 0 は、前記ネジ 1 1 6 の底端に設けられ；前記ノブ 1 1 8 は、ネジ 1 1 6 の頂端に固着される。

【0043】

前記ノブ 1 1 8 により前記ネジ 1 1 6 を回転させると、前記ネジ 1 1 6 を昇降させることができ、ネジ 1 1 6 が上に移動されると、前記ゴム足 1 1 0 が床面から離れ、マッサージチェアは後脚キャスター 5 0 及び前脚キャスターで床面に接触され、すなわち前記マッサージチェアは移動モードにあり、前脚キャスター及び後脚キャスターが同時に回転可能な状態で床面に支持されており、ユーザがマッサージチェアを動かせることができる。

【0044】

前記アジャスタ 1 1 5 のネジ 1 1 6 を下に移させると、前記ゴム足 1 1 0 で床面に支えられ、前記ベース部の後端がわずかに持ち上がり、後脚キャスター 5 0 の車輪 5 8 が床面から離れて、床面に触れない。このように、マッサージチェアは、前脚キャスター及びゴム足 1 1 0 で床面に支えられ、すなわちマッサージチェアの前脚キャスター及び前記 2 個の後脚キャスターが同時に回転可能な状態で床面に支持されない（後脚キャスターの車輪が回転できるが、床面に触れていない）ため、マッサージチェアが安定モードにあり、動かせることができない。

【0045】

前記 2 つのロック機構 A " がベース部の後端に設けられた時、ユーザは、マッサージチェアの後側からアジャスタを操作し；前記 2 つのロック機構 A " がベース部の両側に設けられた時、ユーザは、マッサージチェアの側面からアジャスタを操作する。本実施例は、マッサージチェアを移動モードまたは安定モードに切り替えるために、前記アジャスタ 1 1 5 によって床面に支持または離れるようにゴム足 1 1 0 を制御する。

【0046】

加えて、先行技術において、ペダルを踏むことにより車輪のロックの有無を制御するための様々な技術的手段を本考案に適用できることに特に留意すべきである。

【0047】

上記のように、ロック機構は、前脚キャスターに取り付けられ、そのペダルを車輪の側面に位置させ、ペダルをベース部の前端の左右両側に露出させることで、座部前方の脚保持部によって妨げられない。

【0048】

前脚キャスター及び後脚キャスターをロックできるかどうかに関係なく、360度回転可能な前後脚キャスターを用いることで、マッサージチェアの移動中のターンを容易にすることができる。

【0049】

本考案の実施例の技術的特徴によれば、ユーザは、マッサージチェアをマッサージチェアの前方、後方及び側面から押したり引いたりすることができるが、マッサージチェアの後方で背もたれ部を支えながらマッサージチェアを押したり引いたりするのが最も楽で省力的な姿勢であるため、実施時、前脚キャスターが任意の方向に360度回転でき、後脚キャスターを一定の方向にさせ、且つロック機構のペダルをベース部の後端に露出させ、ユーザがマッサージチェアの後方で直接足で前記 2 個の後脚キャスターを直接制御できるのは、便利である。

【0050】

本考案は、ロック機構なしで前脚キャスター、後脚キャスターの技術的特徴を提供し、代替的に左右の 2 つのゴム足（例えば第 2 及び第 3 の好ましい実施例に示されるように）ベース部の後端に設けられ、マッサージチェアが移動モードにある間、後脚キャスター及び前脚キャスターが同時に床面に支持され；マッサージチェアが安定モードにある間、後脚キャスターは床面から浮き上がり、ゴム足及び前脚キャスターが同時に床面に支持される。

【0051】

実施時、後脚キャスターのキャスター座をベース部後端に上昇可能に取り付け、後脚キャスターのキャスター座が上昇（上方移動）すると、ベース部後端はゴム足で床面に支持さ；後脚キャスターのキャスター座が下降（下方移動）すると、ベース部後端は後脚キャスターで床面に支持され、ゴム足が後脚キャスターに支えられて床面から離れる。上記の様々な実施例は、本考案の技術的特徴の単なる例であり、限定することを意図したのではなく、本考案の均等範囲での修正は本考案の保護範囲に網羅される。

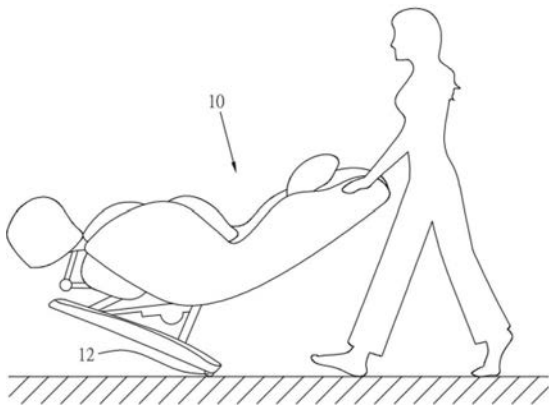
【符号の説明】

【0052】

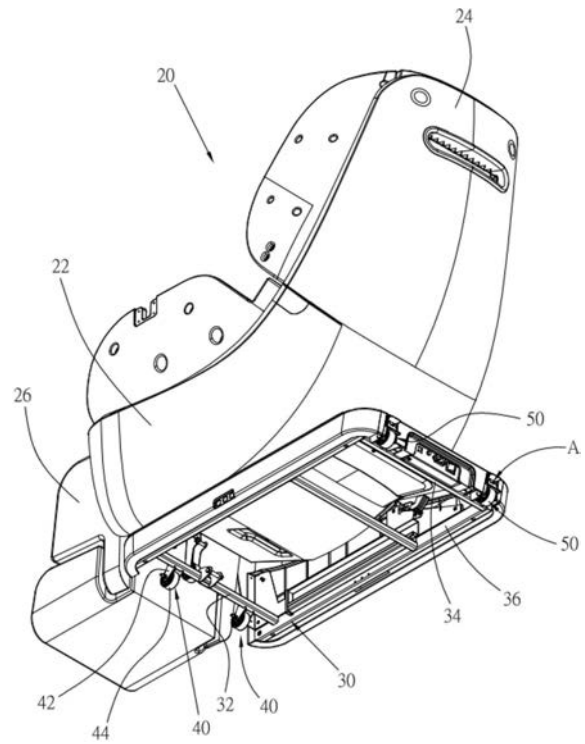
102、104	歯車	
115	アジャスタ	10
116	ネジ	
118	ノブ	
20	マッサージチェア	
22	座部	
24	背もたれ部	
26	脚保持部	
30	ベース部	
32	前クロスビーム	
34	後クロスビーム	
36	サイドビーム	20
40	前脚キャスター	
42	キャスター座	
44	車輪	
50	後脚キャスター	
52	キャスター座	
54	側壁	
56	収容空間	
58	車輪	
59	輪軸	
60、96	アンロックペダル	30
61	ピボット穴	
62	ペダル部	
64	第1連動部	
65	位置決め面	
66	ピボットピン	
70、92	ロックペダル	
72	ペダル部	
74	第2連動部	
741	突起	
742	凹み部	40
75	枢設部	
751	ピボットピン	
76	当接面	
78	枢着軸	
80	ブレーキパッド	
82	支点端	
821、822	舌片	
83	ピン	
84	接触端	
86	枢着部	50

94、110 ゴム足
 98 第1回転軸
 99 第2回転軸
 A、A'、A'' ロック機構
 C 軸方向
 L 縦方向

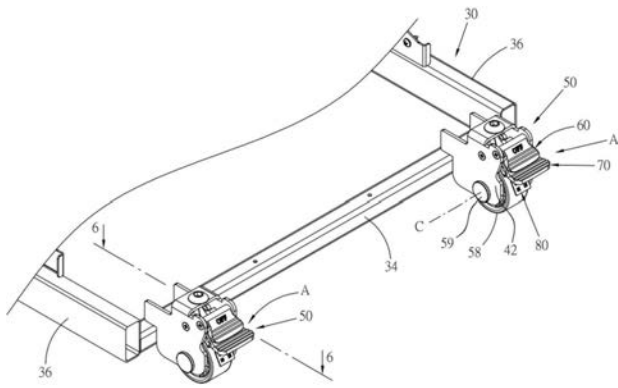
【図1】



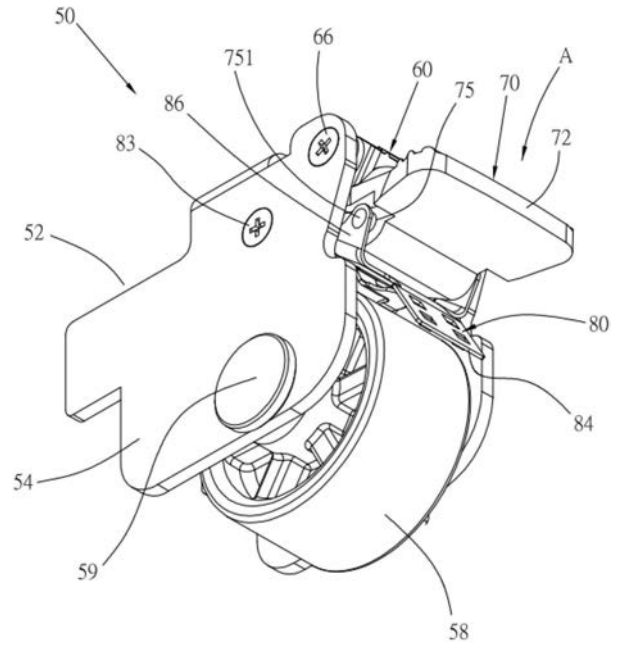
【図2】



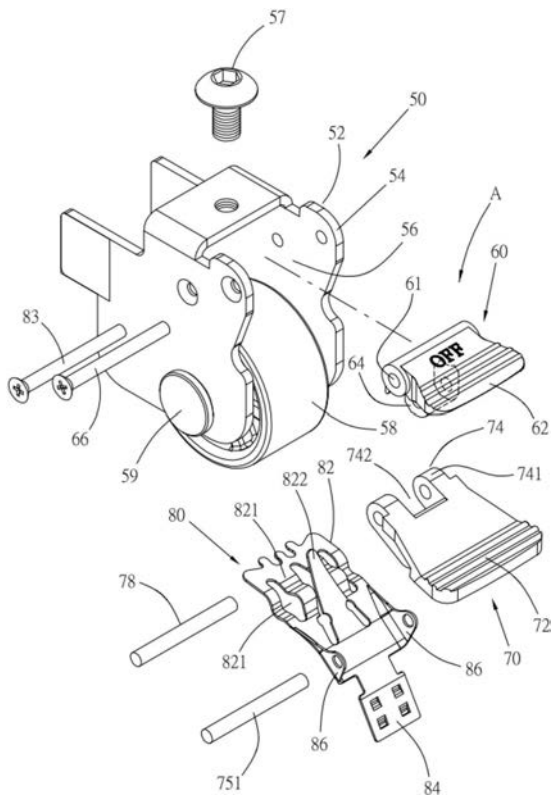
【図 3】



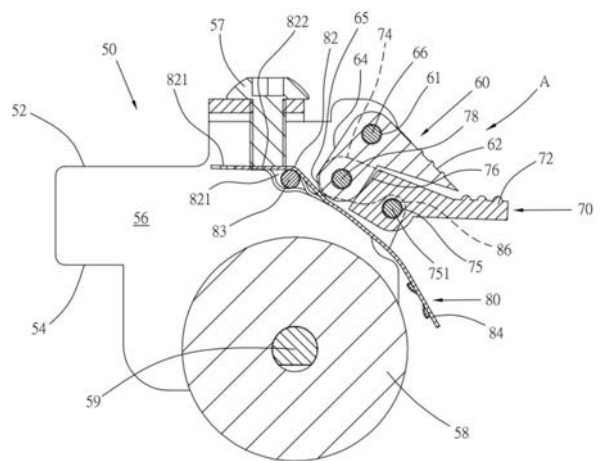
【図 4】



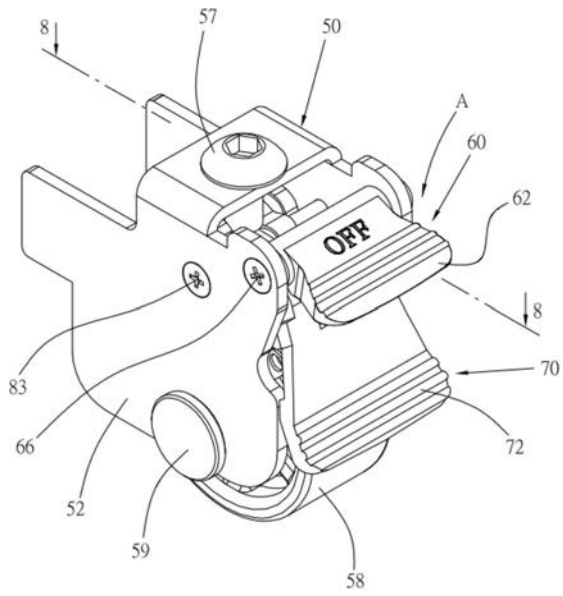
【図 5】



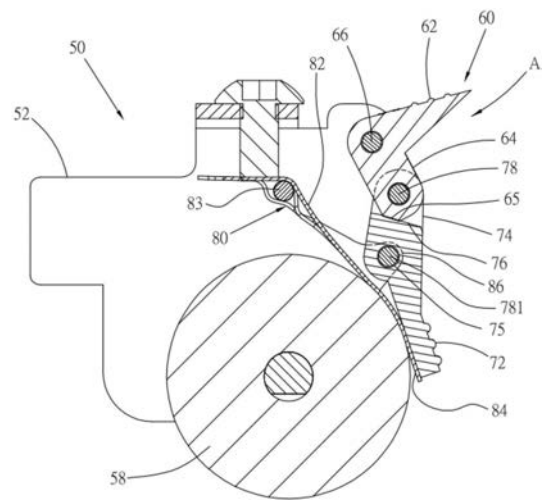
【図 6】



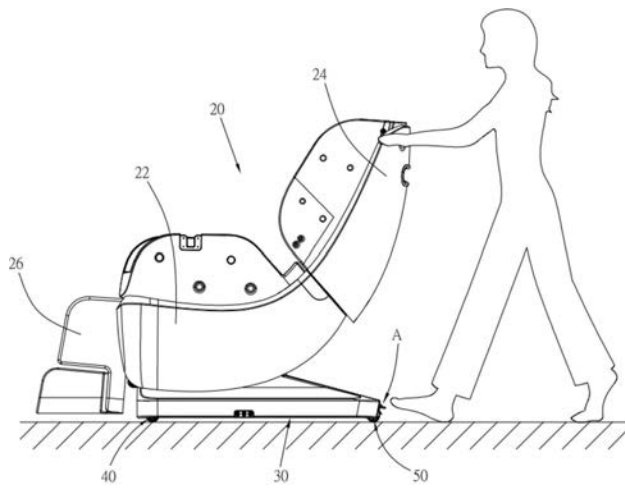
【図 7】



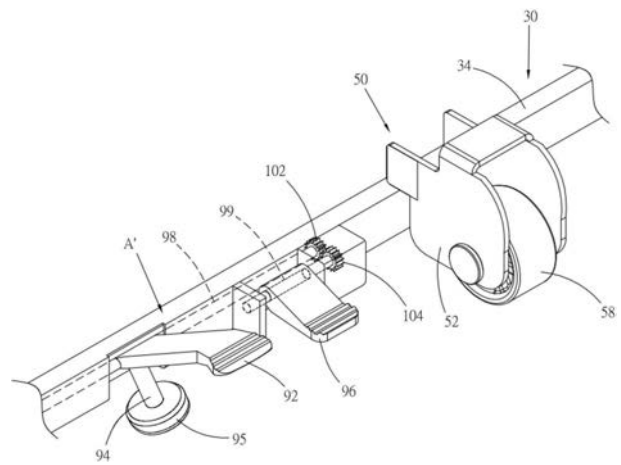
【図 8】



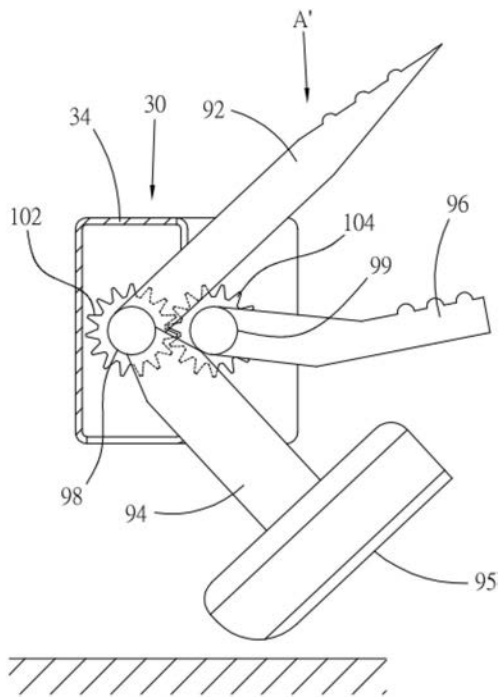
【図 9】



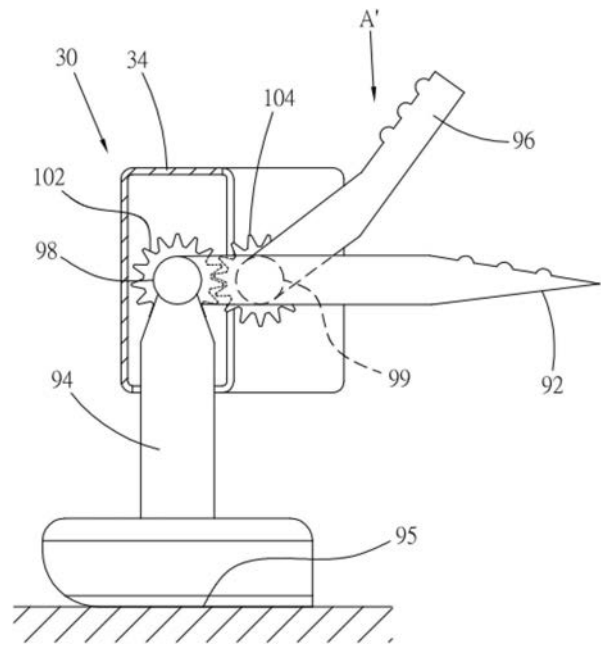
【図 10】



【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】

